

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400058		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム西春の泉(1F)		
所在地	愛知県北名古屋市鍛冶ヶ一色西100番地		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2397400058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過で外出、面会等も出来ないの、皆様の大好きな昭和の番組や歌を録画して鑑賞して頂いたり食事をアレンジして楽しんで頂いています。誕生日のケーキも職員の手作りで、昼食も好きなメニューを作り利用者様から好評を頂いています。時には、なじみの喫茶店から出前を取ったりもしています。季節感に合わせたおやつ提供や年中行事などの昔からの風習を取り入れた食事、おやつ、レクリエーションを提供させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な新築住宅や町工場が建ち並ぶ一画に、11年目を迎えたモダンな外観の事業所がある。「一人ひとりの笑顔と想いを大切に、地域の一員としてみんなに愛されるホームを目指す」を目標とし、その人の今までの生活の継続をしながら、今の生活に生かして過ごせるように、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。地域の人脈や資源を活用しながら地域に開かれた事業所を目指して、敷地内に自販機とベンチを設置し地域の方も憩える場の提供をしたり、地域の祭りの子ども獅子の立ち寄りや園児、中学生、ボランティアなどとの交流をしたり、四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、外食などを一緒に楽しんだりしているが、今年もコロナ禍で地域との関わりが踏みとどまっている。情報入手して状況を確認しながら対応策を検討したり家族に情報を流したりしてケアに繋げるように努めている。玄関ホールに椅子を置いて、玄関越しの面会の場や気分転換を図る憩いの場にし、入居者に菜園の手入れを相談しながら育成をし、四季の作物と一緒に収穫して食卓に彩を添えている。季節の花見や外出、外食などの自粛に伴い、希望を聞いて出前や弁当、ラーメンの宅配を利用したり、週一回のお任せメニューや誕生日のリクエストメニュー、パンケーキやラスク、イチゴ大福などおやつを手作りして楽しく美味しくいただけるよう食事の工夫をしている。居間で、洗濯たたみや食事の下ごしらえを手伝ったり、ソファに腰掛け気の合う方とお喋りを楽しんだり、テレビを見たりしてのんびりと過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの生活スタイルを大切に支えていけるように、気持ちを一つにしてケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット、事務所に理念を掲げ共有しており良い支援を行える様に心掛けている。	事業所理念を各フロアに掲示している。「一人ひとりの笑顔と思いを大切に、地域の一人としてみんなに愛されるホームを目指す」を目標にして、その人らしい生活が送れるような支援と毎日の申し送りや会議等で理念を再確認し、行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ過で外出等が出来ない状況であるが、近隣のお店で出前を取り食べて頂くようにしている。近隣の農家の方に作物の作り方を教えて頂いたり、自治会、子供会の廃品回収のお手伝いをしている。	町内会に加入し、回覧で情報を得ている。地域の行事も少しずつ再開され、自治会や子ども会の廃品回収の手伝いをしながら交流の継続に努めている。自治会のお祭りでは子ども獅子の立ち寄りを楽しみにしている。また、地域の飲食店や馴染みの喫茶店からテイクアウトや出前をしたりして繋がりを継続している。ボランティアの訪問や外食などは今後の状況を確認しながら再開できる日を待ち望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等で近隣の方との挨拶から世間話にと話す機会が増えてきています。ご家族様には、毎月の写真に居室担当のコメントを添えてお伝えしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度民生委員、地域包括、高齢福祉課、ご利用者様、御家族にて実施ですが、コロナ過の為、ご利用者様、ご家族様は、参加できていない状況です。	コロナウイルスの感染状況に応じて臨機応変に対応し、書面での開催や感染対策をして対面での開催をしている。民生委員、包括支援センターや市職員の参加を得て2か月に1回実施しているが、入居者や家族代表の会議参加はコロナ感染に対する不安の申し出により見合わせている。施設の運営状況や活動内容、事故報告などを議題とし、会議の場に出された意見や提案等は記録して職員会議などで協議しサービスの向上に活かしている。	コロナ禍により入居者家族は面会制限や会議の参加見合わせの申し出もある中、運営推進会議の情報は、サービスの向上に繋がる機会でもあるため、より多くの家族の理解が得られるよう、西春の泉のお便りなどで会議の案内をしたり、議事録を送るなどして、積極的に発信していくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めに空室情報の報告、高齢福祉課からのメールによる質問回答、LINEでの情報発信等で連携を図っています。	運営推進会議に市の担当者が毎回参加し情報やアドバイスを得ている。申請の代行業務などで役所へ出向き、サービスの内容などを伝えている。感染症などに関する情報はFAXやネットなどで適宜入手し、保健所にも情報発信するなど良好な協力関係を継続している。また、市主催の研修に参加したり、ズームや動画などを利用して受講し、職員の意識の向上やサービスの向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前は、交通量も多く大型車も良く通るので玄関は、施錠を行っておりますが、施設内は、開放して過ごして頂いております。身体拘束委員会が、定期的に勉強会を行っておりケアの実施に取り組んでいます。	身体拘束委員会では委員を中心に、拘束につながる事柄や、気の緩みや無意識に職員サイドの言葉がけや対応になっていないかなどについてテーマを決めて話し合い、職員の意識の向上や理解を深めるように努めている。エレベーターや階段などは、安全に利用できるよう工夫をして自由な生活空間を提供し、束縛感のない生活が送れるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で虐待について学び、何が虐待に当たるのか職員同士で話し合いお互いに声掛けをしながら虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会はあるが、コロナ過でオンラインが多く全ての職員が、参加できていない状態です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明を実施、不明な点があれば、その都度相談に応じ対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノートや介護記録にて職員間で情報共有し日々のケアに反映させている。運営推進会議にて情報発信を行いケアに対して御家族様やご本人の希望を取り入れより良いケアが出来るように心掛けている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノートに記録し、会議で検討して情報を共有し運営に反映させている。コロナ禍により、引き続き面会も制限されている中、機会を見つけて聞くようになっているが、家族の要望や意見の反映が難しくなっている。毎月、入居者の写真と日ごろの様子を記事にした「グループホーム西春の泉」を発行し、家族に届けている。	コロナ禍で面会制限が続いている中、家族に入居者の日常の様子が伝わりにくくなっている。よりきめの細かい情報を家族に提供するためにアンケート調査やグループホームのお便りの内容を充実させるなどして、家族に安心を届けられることを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、ミーティング等で出た意見と適宜法人に伝え働きやすい環境作りに努めている。	日常の業務の中や申し送り時、またカンファレンスで職員から提案や要望を聞き、協議をして運営に反映させている。全職員に年2回人事考課を導入して自己評価を行い、自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってより良いケアに繋げるよう努めている。管理者は随時話し合う機会を持ち、業務や職場環境などの改善に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務状況の把握に努め相談しやすい環境作り努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、外部研修への参加や動画研修を取り入れて基本の再確認やスキルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北名古屋市内のグループホーム交流会を実施していたが、現在は中止となっており再開の際は参加したいと思っております。名古屋市内のいくつかのグループホームとは交流しており情報交換しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様と面談を行い本人の希望を伝え 御家族様からも希望を聞き送りノートやミーティングによりスタッフ間で情報共有して安心した生活作りを入居者様主体で考えて実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時に御家族様とコミュニケーションを図りご家族様との信頼関係作りを行い相談事等随時対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、サービス提供時にはご家族様から要望を伺い入居者様に必要とされるサービスの提供に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員で協力して共同生活を行いご自身で出来る事は、自己にて行って頂けるよう働きかけるだけではなく出来ない事は支援していただく事で出来る喜びを感じて頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急事態宣言時は、面会中止していた。それ以外は事前に連絡を頂ける事が多く可能な限り感染対策を行ったうえで対面での面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で、中止にしているが、面会が可能であれば、感染対策を行ったうえで出来る限り支援するようにしている。	入居時に生活歴や馴染みの人や場所を把握している。家族や友人、知人の面会や外出については、引き続き状況を確認しながら臨機応変に対応をしている。馴染みの喫茶店のお弁当やラーメンの宅配を利用するなど馴染みのお店の関係が途切れないよう支援に努めている。趣味の習字や折り鶴、針仕事で足ふきマットを作ったり、手作業や日常の家事、畑仕事などを通して今まで培ってきた経験を日常に生かす支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴を把握して共通の話題になりそうな話で会話に入ったり、作業の際はその方のペースに合わせて作業できるよう働きかけ支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も御家族より相談されることも多く、年賀状等で関係が途切れない様に努めている。地域施設という事もあり買い物等でお会いする事も多く常にコミュニケーションを図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活やご本人とのコミュニケーションを通じて希望相談等を聞いていて申し送りノートやミーティング等で職員間で共有している。	入居者に寄り添い、入浴時や夜間のゆっくりしている時、好みのテレビ番組を見ている時などに聴いたり、表情などからくみ取ったりしながら思いの把握に努めている。入居者の意向や感じ取ったことを申し送りノートに記入して会議などで話し合い、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、表情や目の動きなどで意向を判断したり、家族と情報を共有したりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や御家族様から生活歴を伺い職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に入力する事で情報を共有し一人一人の身体状況や生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、カンファレンスを行いその内容をケアプランに反映させると共に御家族様からの要望をお伺いしてケアプランの作成を行いご家族様、入居者様に説明を行っている。	担当職員は責任を持って入居者の意向や気づきを日々の申し送りノートや介護記録に記入し、定期的にモニタリングを行い、ケアプラン活動用紙に目標を設定している。また、ケアカンファレンスで話し合ったことは全職員に周知し共有しながら実践している。計画作成担当者は3か月ごとに評価し、6か月ごとにチェック表を基に介護計画の見直しを行っている。医師や看護師などの意見や入居者、家族の意向等を踏まえながら、問題や課題について情報交換をし、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートより情報共有を行い、それをもとにカンファレンスを行う事で介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせた機能を取り入れADL低下防止に努め柔軟に対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で中止になっている事が多い、廃品回収や北名古屋市イベントには、感染対策をして参加している。外食できないので地域の宅配を利用したり買い物している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診による専門医への受診は、職員が行う事で医療機関への情報伝達が正確に出来るように努めている。元々受診していた専門医への受診は、ご家族様にも協力をお願いしている。緊急時の受診は、感染予防の為、職員で行っている。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いているが提携医に全員変更している。内科は月2回の往診と訪問看護師が交代で訪問している。希望により週2回のリハビリや週1回の歯科往診と口腔ケアが受けられる。専門医の受診は家族の協力もあるが施設で対応している。受診結果は申し送りノートや個人記録で情報を共有している。身体状況に変化があった場合は、主治医や提携医、訪問看護師、による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの体調の変化も施設看護師、訪問看護師への報告を行う事で異変の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	安心して治療が受けられるように入院時には施設サマリーを作成して入院先への情報提供を行っている。緊急時には、往診医へ連絡して紹介状送付依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で過ごされる場合適切な対応が出来るよう御家族様、ご本人から希望を伺い往診医、訪問看護師と連絡を取りながらスタッフ間で情報を共有して適切な対応が行える様に努めている。	重度化や終末期、看取りについては、入居時に家族に方針等を説明した上で意向や希望を確認している。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに家族に報告して、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。また職員が看取りに向けてチームで取り組む支援やメンタルについての研修や急変時の対応と心肺蘇生の訓練を重ね事業所全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の研修や救急救命講習に参加しAEDの使用方法や心肺蘇生の知識を習得 急変時対応できるよう定期的に近隣消防所より訓練用AEDを借りて訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様と共に避難訓練の実施や備蓄食料の使い方や災害時トイレットを実際に使用して体験している。ハザードマップの掲示、市の災害情報を確認しつつ対応できるようにしている。	地震や火災などの災害を想定した訓練を実施している。非常階段を利用した避難誘導や避難経路の確認を実施している。職員はAEDと救命救急の講習を受けている。冠水の危険性の高い地域のため、ライブカメラで水位や市の情報を確認しているが、水害時の訓練は課題となっている。備蓄品は、リスト化され、水や食料など5日分が各フロアの倉庫に用意されている。玄関には、緊急時の非常持ち出しのリュックとAED、消火器が設置されている。	雨による冠水の危険性のある地域のため、水害を想定した訓練と夜間帯の職員体制での訓練も併せて実施していくことを願いたい。また、消防関係者の参加を得て、通報機器の取り扱いや避難時の誘導状況などについての指導や助言を受けて安全性の高い訓練の実施を望むとともに、地域との交流を深め連携を強化し、有事に備えての協力関係を築かれる事を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の行動や気持ち、自尊心を傷つけないような声掛けを心掛けているが、職員によっては、大きな声で聞いてしまう事もありその都度気を付けるように注意している。	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し、日々のケアの中で、ちゃん付けの呼称、とっさの時の言葉使い、声のトーンなどに配慮した支援に努めている。気になる事は会議の議題として取り上げ話し合っている。入居者の個性や人格を考慮し、人間関係にも注意を払った対応に努めている。外部の接遇研修に参加し、報告書と伝達講習により全職員に周知をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時、トイレ誘導時には、必ずご本人に声掛けを行ってから誘導している。拒否が強い場合は、無理強いせずタイミングや声掛けのくふうで応じて頂ける様に声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせた生活を送れるように、どのように過ごしたいかを伺いながら支援するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、更衣の際は、ご自身で服を選んで頂くよう働きかけ自己決定が困難な方には、同じ服装にならず、季節に合ったものを選ぶように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的な献立はあるが、季節によって旬の食材を使ったメニューに変更したり麺類も季節に合わせて温かいもの、冷たいものと入れ替えたりしている。また、誕生日には、ご本人に食べたいものをお聞きしそのメニューを作って召し上がって頂いている。	業者による食材と献立表を利用しているが、季節の食材や入居者の好みのメニューに変更したりして、毎食手作りしている。入居者は食材の検品や調理、準備、後片付けなどその人の得意分野を生かしながら職員と一緒にやっている。菜園で収穫した野菜は食卓に彩を添えている。職員は検食でメニューや味付けのチェックをしている。週2回のパン食や誕生日のリクエストメニューを取り入れたり、出前や弁当、ラーメンの宅配を利用して食事を楽しんでいる。手作りおやつのパンケーキやラスク、イチゴ大福など楽しめる食事の提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を確認してiPadに入力し職員間で把握し、その人にとって適量であるかを確認して提供している。飲み込み、体調、体重の変化を考慮して食事量や形態の見直しを随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを実施。希望者には、週1回歯科往診にて歯科検診、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員が把握し、その人に合わせた声掛け誘導を行いトイレで排泄できるように努めている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄の自立を目指している。また、個々の排泄パターンを把握してさりげない声掛けやタイミングを工夫することで日中はリハパンツから布パンツに替えた方もいる。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援をしている。夜間のみポータブルを利用することで安心して排泄ができる環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を観察すると共に起床時にコップ一杯の牛乳を飲んで頂くようにしている。排便パターンを把握し朝食時に乳酸菌飲料やヨーグルト等を召し上がっていただくと共に身体を動かして自力排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を実施。本人の体調、気分配慮した声掛けを行い、入浴困難な場合は、清拭、陰洗を行い清潔保持に努めています。	入浴は週3回を目安に、入居者の希望や体調に配慮した入浴支援をしている。浴室のリニューアルに伴い身体レベルに合わせて入浴できる設備を整え、どなたでも湯船に浸かれる環境となっている。入居者手作りの足ふきマットをこまめに取替え清潔に配慮した支援や、季節のゆず湯やしょうぶ湯、入浴剤を利用して入浴を楽しむ工夫をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らって声掛けし、気持ちよく入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に合わせて生活ペースに配慮しつつ本人の生活サイクルを極力変えない様に対応している。昼寝の習慣がある方には、昼寝が出来る様に声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が分かる様に個々のファイルに最新の薬情をファイリングしている。トリプル☑で服薬間違いを防ぐように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動で出来る事を分担して行って頂くと共に趣味のある方には、趣味の時間を取るよう配慮した働きかけを行っている。特定の趣味がない方に関しては、ゲーム等に参加して頂けるように声掛けをさせて頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で外食レク、喫茶レクで出来ないもので施設内でケーキ作りをしたり、宅配弁当などを頼んで楽しんでもらっている。	日常的に散歩に出かけられる環境にあり、お天気の良い日には洗濯物を干したり、入居者に教わりながら菜園の手入れや野菜の収穫を楽しんだりして外気に触れる機会を大切にしている。引き続き、喫茶店や外食などの外出支援は自粛しているが、コロナの状況を見ながらドライブやお花見などに出かけている。今後、入居者の行きたい所や季節のお花見、紅葉狩りなど少人数ごとに出掛けられるよう支援をしていく方向にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ過で買い物に行く事が出来ないの、職員が代わりに買い物をして施設内で立替をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様了解のもと、本人希望時に電話で話せるようにしている。又、用事でこちらから電話をした際に話して頂ける時間を作るといった配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りやカレンダーを作り掲示すると共に季節に合わせた工作をレクで作成して飾る事で季節感のある室内装飾を行えるように努めている。	共用空間は、食堂と居間がワンフロアで明るく、風通しが良く開放感がある。広い共用空間を、入居者が手すりを利用して安全に移動できる動線も確保している。リビングの壁には、四季を感じる手作りカレンダーが飾られ、落ち着いた大人の雰囲気のある生活空間になっている。キッチンからは調理を行いながら入居者を見守ることができる配置となっている。入居者は思い思いの場所で家事仕事やテレビを見たり、おしゃべりや新聞を読んだりして居心地よく過ごせる環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事で見守りや介助が必要な方は、座席を替えているが、その他の時間は、気の合う入居者様同志と一緒に座り会話をしたりテレビを観たりしている。フロアのテレビ番組以外を観たい方で、居室にテレビがある方は、居室で見ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様に使い慣れたものを持って来て頂き配置するといった配慮を行うと共に本人の使いやすさを考慮した配置を本人と相談しながら行う様にしている。	居室は入居者の希望に沿って、自宅で使用していた布団を敷いたり、ベットやタンス、テレビなどを持ち込み、安心して生活できる環境作りをしている。また、愛着のある手作り作品や写真などを飾って自分らしく落ち着いて過ごせるよう努めている。毎日の掃除や布団の上げ下げなど自身で行う方もおり自立した生活が送れるよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状況に合わせて出きる事は、自己に行って頂き出来そうな事を見つけ行って頂ける様に働きかけ、できない事はお手伝い出来るように支援を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400058		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム西春の泉(2F)		
所在地	愛知県北名古屋市鍛冶ヶ一色西100番地		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JisyosyoCd=2397400058-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和4年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ過で外出、面会等も出来ないで、皆様の大好きな昭和の番組や歌を録画して鑑賞して頂いたり食事をアレンジして楽しんで頂いています。誕生日のケーキも職員の手作りで、屋食も好きなメニューを作り利用者様から好評を頂いています。時には、なじみの喫茶店から出前を取ったりもしています。季節感に合わせたおやつを提供や年中行事などの昔からの風習を取り入れた食事、おやつ、レクリエーションを提供させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な新築住宅や町工場が建ち並ぶ一画に、11年目を迎えたモダンな外観の事業所がある。「一人ひとりの笑顔と想いを大切に、地域の一人としてみんなに愛されるホームを目指す」を目標とし、その人の今までの生活の継続をしながら、今の生活に生かして過ごせるように、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。地域の人脈や資源を活用しながら地域に開かれた事業所を目指して、敷地内に自販機とベンチを設置し地域の方も憩える場の提供をしたり、地域の祭りの子ども獅子の立ち寄りや園児、中学生、ボランティアなどの交流をしたり、四季折々の移ろいを感じながらの散歩や買い物、花見、外食などを一緒に楽しんだりしているが、今年もコロナ禍で地域との関わりが踏みとどまっている。情報を入力して状況を確認しながら対応策を検討したり家族に情報を流したりしてケアに繋げるように努めている。玄関ホールに椅子を置いて、玄関越しの面会の場や気分転換を図る憩いの場にしたり、入居者に菜園の手入れを相談しながら育成をし、四季の作物と一緒に収穫して食卓に彩を添えている。季節の花見や外出、外食などの自粛に伴い、希望を聞いて出前や弁当、ラーメンの宅配を利用したり、週一回のお任せメニューや誕生日のリクエストメニュー、パンケーキやラスク、イチゴ大福などおやつを手作りして楽しく美味しくいただけるよう食事の工夫をしている。居間で、洗濯たたみや食事の下ごしらえを手伝ったり、ソファに腰掛け気の合う方とお喋りを楽しんだり、テレビを見たりしてのんびりと過ごしている。職員は、一人ひとりの笑顔と想い、その人なりの生活スタイルを大切に支えていけるように、気持ちを一つにしてケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット、事務所に理念を掲げ共有しており良い支援を行える様に心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過で外出等が出来ない状況であるが、近隣のお店で出前を取り食べて頂くようにしている。 近隣の農家の方に作物の作り方を教えて頂いたり、自治会、子供会の廃品回収のお手伝いをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等で近隣の方との挨拶から世間話に話す機会が増えてきています。ご家族様には、毎月の写真に居室担当のコメントを添えてお伝えしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度民生委員、地域包括、高齢福祉課、ご利用者様、御家族にて実施ですが、コロナ過の為、ご利用者様、ご家族様は、参加できていない状況です。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めに空室情報の報告、高齢福祉課からのメールによる質問回答、LINEでの情報発信等で連携を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関前は、交通量も多く大型車も良く通るので玄関は、施錠を行っておりますが、施設内は、開放して過ごして頂いております。身体拘束委員会が、定期的に勉強会を行っておりケアの実施に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で虐待について学び、何が虐待に当たるのか職員同士で話し合いお互いに声掛けをしながら虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会はあるが、コロナ過でオンラインが多く全ての職員が、参加できていない状態です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明を実施、不明な点があれば、その都度相談に応じ対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノートや介護記録にて職員間で情報共有し日々のケアに反映させている。運営推進会議にて情報発信を行いケアに対して御家族様やご本人の希望を取り入れより良いケアが出来るように心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、ミーティング等で出た意見と適宜法人に伝え働きやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務状況の把握に努め相談しやすい環境作り努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、外部研修への参加や動画研修を取り入れて基本の再確認やスキルアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北名古屋市内のグループホーム交流会を実施していたが、現在は中止となっており再開の際は参加したいと思っております。名古屋市内のいくつかのグループホームとは交流しており情報交換しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様と面談を行い本人の希望を伝え 御家族様からも希望を聞き送りノートやミーティングによりスタッフ間で情報共有して安心した生活作りを入居者様主体で考えて実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時に御家族様とコミュニケーションを図りご家族様との信頼関係作りを行い相談事等随時対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、サービス提供時にはご家族様から要望を伺い入居者様に必要とされるサービスの提供に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員で協力して共同生活を行いご自身で出来る事は、自己にて行って頂けるよう働きかけるだけではなく出来ない事は支援していただく事で出来る喜びを感じて頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急事態宣言時は、面会中止していた。それ以外は事前に連絡を頂ける事が多く可能な限り感染対策を行ったうえで対面での面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で、中止にしているが、面会が可能であれば、感染対策を行ったうえで出来る限り支援するようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴を把握して共通の話題になりそうな話で会話に入ったり、作業の際はその方のペースに合わせて作業できるよう働きかけ支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も御家族より相談されることも多く、年賀状等で関係が途切れない様に努めている。地域施設という事もあり買い物等でお会いする事も多く常にコミュニケーションを図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活やご本人とのコミュニケーションを通じて希望相談等を聞いていて申し送りノートやミーティング等で職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や御家族様から生活歴を伺い職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に入力する事で情報を共有し一人一人の身体状況や生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング、カンファレンスを行いその内容をケアプランに反映させると共に御家族様からの要望をお伺いしてケアプランの作成を行いご家族様、入居者様に説明を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りノートより情報共有を行い、それをもとにカンファレンスを行う事で介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせた機能を取り入れADL低下防止に努め柔軟に対応できるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過で中止になっている事が多い、廃品回収や北名古屋市のイベントには、感染対策をして参加している。外食できないので地域の宅配を利用したり買い物している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診による専門医への受診は、職員が行う事で医療機関への情報伝達が正確に出来るように努めている。元々受診していた専門医への受診は、ご家族様にも協力をお願いしている。緊急時の受診は、感染予防の為、職員で行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの体調の変化も施設看護師、訪問看護師への報告を行う事で異変の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が受けられるように入院時には施設サマリーを作成して入院先への情報提供を行っている。緊急時には、往診医へ連絡して紹介状送付依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設で過ごされる場合適切な対応が出来るよう御家族様、ご本人から希望を伺い往診医、訪問看護師と連絡を取りながらスタッフ間で情報を共有して適切な対応が行える様に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の研修や救急救命講習に参加しAEDの使用方法や心肺蘇生の知識を習得 急変時対応できるよう定期的に近隣消防所より訓練用AEDを借りて訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様と共に避難訓練の実施や備蓄食料の使い方や災害時トイレキットを実際を使用して体験している。ハザードマップの掲示、市の災害情報を確認しつつ対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の行動や気持ち、自尊心を傷つけないような声掛けを心掛けているが、職員によっては、大きな声で聞いてしまう事もありその都度気を付けるように注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時、トイレ誘導時には、必ずご本人に声掛けを行ってから誘導している。拒否が強い場合は、無理強いせずタイミングや声掛けのくふうで応じて頂ける様に声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせた生活を送れるように、どのように過ごしたいかを伺いながら支援するように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、更衣の際は、ご自身で服を選んで頂くよう働きかけ自己決定が困難な方には、同じ服装にせず、季節に合ったものを選ぶように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的な献立はあるが、季節によって旬の食材を使ったメニューに変更したり麺類も季節に合わせて温かいもの、冷たいものと入れ替えたりしている。また、誕生日には、ご本人に食べたいものをお聞きしそのメニューを作って召し上がって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を確認してiPadに入力し職員間で把握し、その人にとって適量であるかを確認して提供している。飲み込み、体調、体重の変化を考慮して食事量や形態の見直しを随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアを実施。希望者には、週1回歯科往診にて歯科検診、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員が把握し、その人に合わせた声掛け誘導を行いトイレで排泄できるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を観察すると共に起床時にコップ一杯の牛乳を飲んで頂くようにしている。排便パターンを把握し朝食時に乳酸菌飲料やヨーグルト等を召し上がっていただくと共に身体を動かして自力排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目安に入浴を実施。本人の体調、気分配慮した声掛けを行い、入浴困難な場合は、清拭、陰洗を行い清潔保持に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に合わせ生活ペースに配慮しつつ本人の生活サイクルを極力変えない様に対応している。昼寝の習慣がある方には、昼寝が出来る様に声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が分かる様に個々のファイルに最新の薬情をファイリングしている。トリプル☑で服薬間違いを防ぐように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動で出来る事を分担して行って頂くと共に趣味のある方には、趣味の時間を取れるよう配慮した働きかけを行っている。特定の趣味がない方に関しては、ゲーム等に参加して頂けるように声掛けをさせて頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で外食レク、喫茶レクが出来ないので施設内でケーキ作りをしたり、宅配弁当などを頼んで楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ過で買い物に行く事が出来ないの、職員が代わりに買い物をして施設内で立替をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様了解のもと、本人希望時に電話で話せるようにしている。又、用事でこちらから電話をした際に話して頂ける時間を作るといった配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りやカレンダーを作り掲示すると共に季節に合わせた工作をレクで作成して飾る事で季節感のある室内装飾を行えるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事で見守りや介助が必要な方は、座席を替えているが、その他の時間は、気の合う入居者様同志と一緒に座り会話をしたりテレビを観たりしている。フロアのテレビ番組以外を観たい方で、居室にテレビがある方は、居室で見ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様に使い慣れたものを持って来て頂き配置するといった配慮を行うと共に本人の使いやすさを考慮した配置を本人と相談しながら行う様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状況に合わせてできる事は、自己にて行って頂き出来そうな事を見つけ行って頂ける様に働きかけ、できない事はお手伝い出来るように支援を行っている。		